

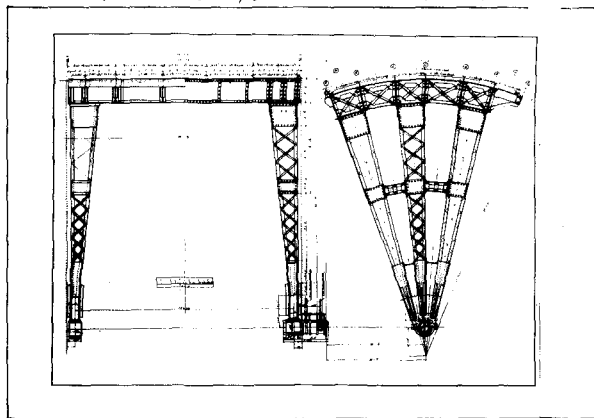
水門の耐用性に因する実験(大正年間の水門の撤去材を利用した実験)

関西電力株式会社 正員○中村 恵次
正員 千田 実

1. まえがき

現在当社の水力発電所ダムで使用している水門には大正年間に設置されたものが相当数稼働している。これらの中には老朽化し安全性の検討を必要とするものも現れている。今回実験材料として使用した大井ダム及び落合ダムのラジアルゲートは前者が大正13年後者が15年設置されたものである。その概略図及び諸元を次に示す。

オ1図 大井ダムラジアルゲート



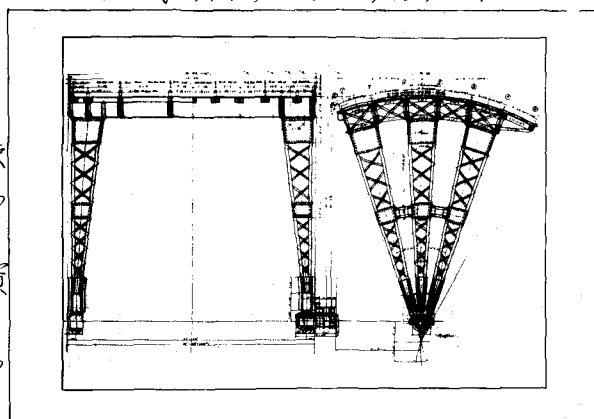
大井ダムラジアルゲート諸元

型 式	ラジアルゲート
径 間	7 ^m 576
高 さ	6 ^m 400
ゲート半径	8 ^m 839
水密方式	3方水密

落合ダムラジアルゲート諸元

型 式	ラジアルゲート
径 間	7 ^m 576
高 さ	6 ^m 096
ゲート半径	7 ^m 315
水密方式	3方水密

オ2図 落合ダムラジアルゲート



本実験は両ダムの水門の撤去材を使用して種々の実験を行なうもので、その目的とするものは

(1)水門の耐用性の限界を決定する資料を得ること。

(2)同年代の水門の補修に際し最善の方法を確立すること。

(3)将来の設計の資料を得ること。

以上の3点である。

2. 実験の概要

次に実験項目を列举する。

